

第7章

ま と め

- 7-1 自分の住んでいる地域の防災上の課題
- 7-2 地域住民に参加してもらおうアイデア
- 7-3 自分の住んでいる地域で実施したい防災活動
- 7-4 理解度チェック
- 7-5 今後に向けての決意表明

この章で学ぶこと

- 自分の住んでいる地域の防災上の課題を理解します。
- 地域住民に参加してもらおうアイデアを身につけます。
- 自分の住んでいる地域で実施したい防災活動について検討します。
- 養成講習会全体の理解度をクイズ形式によりチェックします。
- 今後に向けての決意表明を行います。

第7章 まとめ

7-1 自分の住んでいる地域の防災上の課題

これまで地域で行う防災活動について、様々な側面から学んできました。
ここからは、これまで学んだことを地域防災リーダーとして自分の住んでいる地域で活用することを考えていきましょう。

(1) 自分の住んでいる地域の防災上の課題を考えましょう

これまで地域で行う防災活動について学んできましたが、自分の住んでいる地域ではどんなことができていますか？

逆に、まだできていないこと・不足していることはどんなことでしょうか？

地域について、もっと知っておいた方が良いと思うことはありますか？

まずは、自分の住んでいる地域の防災上の課題を整理しましょう。

グループディスカッション

【 ディスカッションテーマ 】

自分の住んでいる地域の防災活動について思うことを、グループのメンバーと共有しましょう。

自分の住んでいる地域で、ちゃんとできていることは何でしょうか？

また、まだできていないこと・不足していることは何でしょうか？

自分の住んでいる地域についてもっと知りたいことは何でしょうか？

他の人の意見も聞きながら、自由にディスカッションしましょう。

【 ディスカッション手順 】

- 3～5人のグループに分かれてください。
- グループ内でそれぞれ自分の住んでいる地域の防災活動の課題として思うことを自由に発言し合ってください。

(まとめる必要はありませんので、思いついたことを何でも自由に発言してください)



Memo

A large rectangular area enclosed by a dashed green border, containing 25 horizontal dotted lines for writing.

7
ま
と
め



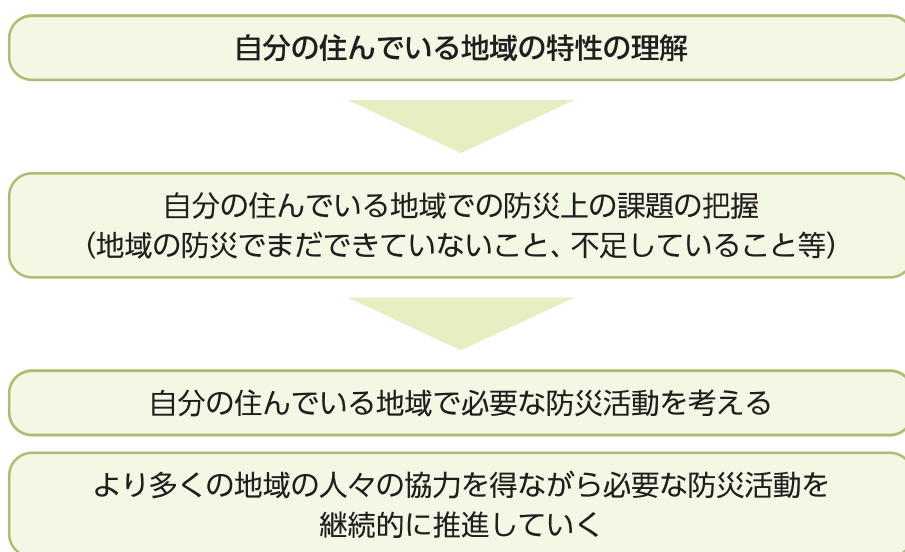
(2) 平常時の準備・訓練の重要性

自分の住んでいる地域で今後取り組むべき課題は見えてきましたか？

また、グループメンバーと自分の住んでいる地域の課題を話し合ってみて、何か発見はありましたか？

それぞれの地域の状況によって、取り組むべき課題は異なるはずです。自分の住んでいる地域で効果的な「共助」を行うためには、地域の特性に合わせた準備や訓練を平常時から実施することがとても大切です。

自分の住んでいる地域の防災上の課題は何かを考え、必要な防災活動を地域全体の協力を得ながら推進していくこと、それは地域を良く知る地域防災リーダーにしかできないことです。



地域を良く知る地域防災
リーダーの腕の見せ所！



7-2 地域住民に参加してもらうアイデア

(1) 地域住民に参加してもらうことの重要性

地域の防災活動は、自主防災組織の役員だけでなく、一般の住民の方々が参加することにより持続可能な活動や活性化につながり、一人ひとりの防災意識を高めることができます。また、防災活動を行う際には、地域の自然条件や歴史等をよく知っている住民の方々に参加してもらうことも有効です。このような工夫により、地域に根差し、地域の実情に合った防災活動を行うことができます。

しかし、残念ながら地域住民の中には防災に無関心であったり、活動が苦手な方なども少なくありません。

地域の防災力を高めるといことは、このような色々な地域住民の方に参加してもらいながら活動していくということでもあります。そのために、地域防災リーダーは地域住民の方に参加してもらう工夫を考えることや、そのために住民の方とうまくコミュニケーションをとることが求められます。

地域防災リーダーの
大事な役割です！



(2) 地域住民に参加してもらうためのアイデア

地域住民に参加してもらうために様々な工夫をしている事例を紹介します。

- ① 地域の小学校と連携して、親子防災ワークショップを実施する。
- ② 地域の幼稚園と連携して、防災ゲームを実施する。
- ③ 地域の小学校のPTAと連携して、「災害時に子どもを守る」ためのワークショップを実施する。
- ④ 地域の小学校と連携した、「親子で避難所体験」を実施する。
- ⑤ 地域の小・中学校と連携して「楽しみながら防災の技術を身に付ける」防災運動会を実施する。
- ⑥ 町内会行事と連携した防災活動を実施する。

グループディスカッション

【 ディスカッションテーマ 】

「地域住民に参加してもらうための工夫」のアイデアを、グループで話し合ってみましょう。


思いついたことをどんどん発言し、できるだけ多くのアイデアを出してみましょう。

【 ディスカッション手順 】

- 3～5人のグループに分かれてください。
- グループ内で思いついたアイデアを自由に話し合ってください。
(まとめる必要はありませんので、思いついたことを何でも自由に発言してください)



Memo



7-3 自分の住んでいる地域で実施したい防災活動

地域に戻って何をしますか？

皆さんはこれまで、地域で行う防災活動について様々なことを学んできました。いよいよ、地域に戻って実際に実行する段階となります。

自分の地域のことを思い浮かべてみてください。地域に戻ったら、まず何をしますか？

グループディスカッション

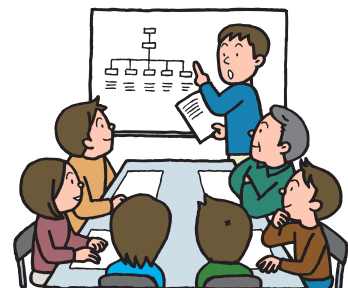
【 ディスカッションテーマ 】

自分の地域に戻って実施したいと思う防災活動を考え、グループのメンバーに発表しましょう。活動内容は何でも結構です。自分の地域に必要なだと思うことをたくさん出しましょう。

【 ディスカッション手順 】

- 3～5人のグループに分かれてください。
- 各自、自分が実施したい防災活動を他のメンバーに発表してください。
- 発表された意見に対して、自由に話し合ってください。
(まとめる必要はありませんので、思いついたことを何でも自由に発言してください)

地域防災リーダーとして活躍できるように、みんなで励まし合いましょう！



Memo

A large rectangular area enclosed by a dashed green border, containing horizontal dotted lines for writing.

7
ま
と
め



7-4 理解度チェック

今まで学んできたことをチェックしましょう！

下記の問題を読み、各問が正しいと思う場合は「○」、そうでないと思う場合は「×」を選んでください。

(1) 自助・共助・公助の役割 (第1章)

- Q1 自助とは防災活動の最も基礎的な部分をなすものである。
- Q2 自分たちの住む地域の防災上の特性は、自主防災組織の役員の方々だけでなく地域住民の皆さんも理解していることが大切である。
- Q3 地域防災リーダーとは、町内で災害が発生したときにのみ住民を指揮する役割を持つ。
- Q4 コミュニティ防災センターは町内会単位で整備されている。
- Q5 津波情報伝達システムは遠くで発生した地震へは対応していない。
- Q6 自主防災活動は地元消防団、女性防火クラブ、学校等と連携を図っていくべきである。
- Q7 災害ボランティアセンターの設置、運営主体は仙台市である。

(解答欄)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7

(2) 自分の住んでいる地域の特性の理解 (第2章)

- Q1 地域の特性には、「地理的・地盤的特性」、「街並み・建物の特性」、「人口分布の特性」の3種類がある。
- Q2 防災マップは、作成すること自体に目的がある。
- Q3 防災マップは自主防災組織の役員が作り上げるものである。
- Q4 災害時に役立つ施設の範囲内には公衆電話が含まれる。
- Q5 災害時要援護者の情報は、防災マップへ記載してはいけない。
- Q6 有益な情報はどのようなものでも防災マップへ記載すべきである。
- Q7 地域防災力診断を実施することでその地域の特性や弱点にあった防災活動ができる。

(解答欄)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7

(3) 常日頃備えておく技能 (第3章)

- Q1 災害時の応急活動を適切に行うためには、時間をかけてでも正確な情報を把握する必要がある。
- Q2 燃焼の4要素とは可燃物、空気、熱、連鎖反応である。
- Q3 消火活動は危険を伴うため常に避難経路を確保し、危険な状態に至る前に避難することが大切である。
- Q4 完全に倒壊している家屋は、搜索・救助活動の対象とはならない。
- Q5 「避難指示」が発令された地域の居住者等は危険な場所から全員避難する必要がある。
- Q6 止血をするときはより心臓に近いところを細いひもなどで縛ると有効である。
- Q7 やけどは昔からの知恵で「味噌」を塗ると効果的である。
- Q8 トリアージタグとは、医療従事者が傷病の緊急性・重要度に応じて分類するのに用いるタグ（識別票）のことをいう。

(解答欄)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8

(4) 自主防災組織の機能を高めるための活動 (第4章)・まとめ (第7章)

- Q1 自主防災計画には、防災訓練の予定のみ記載されれば十分である。
- Q2 アクションカードは平常時にあらかじめそれぞれの役割を確認するために使用するものである。
- Q3 アクションカードは集会所や自主防災組織の資機材倉庫などに置いておくようにするのがよい。
- Q4 DIGは災害時の地域の様子を具体的にイメージするのに役立つが、参加者のコミュニケーション活性化の効果はない。
- Q5 クロスロードの問題に正解はなく、いろいろな考えがあることを知ることが大切である。
- Q6 HUGとは、ビンゴゲーム方式で、非常持出し品について考えるゲームである。
- Q7 それぞれの地域の状況に係わらず、防災上取り組むべき課題は同じである。
- Q8 地域の防災活動は、自主防災組織の役員だけが行うべきである。

(解答欄)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8

7-5 今後に向けての決意表明

あなたはこれから地域防災リーダーです

これでカリキュラムは全て終了です。

いよいよ、皆さんは地域に戻り、地域防災リーダーとして活躍することとなります。防災リーダーとしての決意をクラスの皆さんと共有し、お互いに励まし合いましょう。

発表

【発表のテーマ】

この講習で特に何を学びましたか？

地域に戻って何を実践したいと思いますか？

「講習を終えての感想」と「地域に戻って特に何に取り組みたいか」を考え、発表しましょう。

【発表の手順】

- 「講習を終えての感想」と「地域に戻って特に何に取り組みたいか」を考え、メモしておきます。
- 講師に指名されたら、考えた内容をクラスに発表してください。

あなたの決意表明

講習を終えての感想は？

地域に戻って特に何に取り組みたいです？

お疲れさまでした！地域防災リーダーとしてのご活躍を期待しています！

理解度チェック（解答）



(1) 自助・共助・公助の役割 (第1章)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
○	○	×	×	×	○	×

解 説

Q1： 1 「(1) 自助とは」

自助は、防災活動の最も基礎的な部分をなすもので、特に各家庭内での準備が重要です。

Q2： 1 「□ 効果的な自主防災活動とは」

自主防災組織の望ましい形には、自分の住んでいる地域の防災上の特性が明確になっており、その地域特性を自主防災組織の役員の方々だけでなく、住民の皆さんが理解している状態も含まれています。

Q3： 1 「(1) 地域防災リーダーとは」

地域防災リーダーには、平常時に効果的な防災訓練を企画し実践するなど地域コミュニティの活性化を図りながら、災害予防活動を担っていただく役割も含まれています。

Q4： 1 「(3) コミュニティ防災センターの備蓄資機材」

コミュニティ防災センターは、市民センター、コミュニティ・センターの整備に併せ小学校区単位に整備を進めています。

Q5： 1 「(3) 津波情報伝達システム」

遠くで発生した地震により津波が発生する場合もあるため、気象庁が津波予報を発表した場合、津波情報伝達システム等で情報を伝達します。

Q6： 1 「地域団体との連携の必要性」

自主防災活動を継続して行うためには、地元消防団、女性防火クラブ、学校等と連携し、活動の活性化を図る必要があります。

Q7： 1 「災害ボランティアセンターとの連携」

仙台市では、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置することとしております。

(2) 自分の住んでいる地域の特性の理解 (第2章)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
○	×	×	○	×	×	○

解 説

- Q1: 2 「(1) 自分の住んでいる地域の特性とは」
地域の特性には、「地理的・地盤的特性」、「街並み・建物の特性」、「人口分布の特性」の3種類があります。
- Q2: 2 「(2) 自分の住んでいる地域の防災マップを作成してみましょう」
防災マップは、地域の方々が主体となって防災を考え、地域の問題を認識し解決する方策を考えることに意味があります。
- Q3: 2 「2-2 防災マップの作成」
地域に住んでいる住民が一緒になって、防災マップを作り上げることも、防災活動の一つです。
- Q4: 2 「地域を知ろう」
災害時に役立つ施設の例としては、公衆電話の他、避難所、防災倉庫、消防署、病院、コンビニ、ガソリンスタンドなどがあります。
- Q5: 2 「POINT！」
災害時要援護者の個人情報については、あらかじめ本人の承諾を得るなどその取扱いに十分注意する必要があります。
- Q6: 2 「POINT！」
防災マップに記載される事柄は、あらかじめ地域住民の間で十分に話し合い、合意を得ておく必要があります。
- Q7: 2 「地域防災力診断とは」
地域防災力診断結果をもとに、この点数を上げるための活動を実施することで、その地域の特性や弱点に合った防災活動を進めることができます。

(3) 常日頃備えておく技能 (第3章)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
×	○	○	×	○	×	×	○

解 説

- Q1: 3 「情報収集・伝達について学ぼう」
災害時の応急活動を適切に行うためには、正確な情報を迅速に把握し伝えることが必要です。
- Q2: 3 「(1) 燃焼の原理」
燃焼の4要素とは、①可燃物、②空気(酸素)、③熱、④連鎖反応(化学反応)の4つをいいます。
- Q3: 3 「POINT！」
消火活動は危険が伴うので、常に避難経路を確保し、危険な状態に至る前に避難することが原則です。
- Q4: 3 「(2) 搜索・救助活動の対象となる家屋」
搜索・救助活動の対象は、完全に倒壊していても余震が来てもそれ以上崩れることがないと考えられる家屋です。
- Q5: 3 「仙台市の避難情報の発令基準」
災害が発生するおそれが高い状況で発令する情報であり、居住者等は危険な場所から全員避難する必要があります。
- Q6: 3 「POINT！」
止血法としては、出血部位を直接圧迫する直接圧迫止血法が基本です。細いひもや針金で縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあります。
- Q7: 3 「(2) 中ぐらいの深さのやけどの場合」
熱傷(やけど)に対しては、チンク油、アロエ、味噌などを塗るのは禁物です。
- Q8: 3 「トリアージタグとは」
トリアージタグとは、医療従事者がトリアージの際に用いるタグ(識別票)のことをいいます。

(4) 自主防災組織の機能を高めるための活動(第4章)・まとめ(第7章)

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
×	×	○	×	○	×	×	×

解 説

Q1: 4 「(3) 自主防災計画の作成」

自主防災計画には、防災訓練だけでなく、災害時に行うことや、その他地域の防災に係わる幅広い活動も含まれます。

Q2: 4 「(1) アクションカードについて」

アクションカードは、災害時の具体的な活動内容をあらかじめ担当業務ごとに、カードにまとめておくもので、災害時の自主防災活動に活用します。

Q3: 4 「(3) アクションカードの保管場所」

アクションカードは、災害発生時にすぐに取り出せるように、地域の集会所や自主防災組織の資機材倉庫など、皆が集まり活動拠点となる場所にあらかじめ置いておけば、災害発生時に活用を図ることができます。

Q4: 4 「(2) DIGの効果」

DIGの効果には、参加者のコミュニケーションが活性化し、地域コミュニティが盛んになるといったものも含まれます。

Q5: 4 「(2) クロスロードの効果」

クロスロードは、問題に正解・不正解はなく、自分や他人がどうしてYESもしくはNOを選んだのかを知り、いろいろな考え方があることを知ってもらうことが大切です。

Q6: 4 「HUGについて学ぼう」

HUGとは、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に、様々な避難者に見立てたカードをどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

Q7: 7 「(2) 平常時の準備・訓練の重要性」

それぞれの地域の状況によって、取り組むべき課題は異なるはずなので、地域の特性に合わせた準備や訓練を平常時から実施することがとても大切です。

Q8: 7 「(1) 地域住民に参加してもらうことの重要性」

地域の防災活動は、自主防災組織の役員だけでなく、一般の住民の方々が参加することにより持続可能な活動や活性化につながります。